

大会要綱（抜粋）

1) 競技種目と出場枠

競技種目	出場枠	出場資格	注意事項	選手変更
男子個人実戦競技	2名	初段以上	プロテクター着用	不可
女子個人実戦競技	2名	初段以上	面ピット・プロテクター着用	不可
男子個人法形競技	2名	原則として初段以上 (推薦により2級以上)	1・2回戦：運体・3回戦：転体 4回戦以降：体から自由選択	不可
女子個人法形競技	2名	原則として初段以上 (推薦により2級以上)	1・2回戦：運陰・3回戦：転陰 4回戦以降：陰から自由選択	不可
男子団体実戦競技	1チーム	原則として初段以上 (推薦により1級以上)	原則1チーム5名（3名から参加可能） プロテクター着用	可
女子団体実戦競技	1チーム	原則として初段以上 (推薦により1級以上)	原則1チーム5名（3名から参加可能） 面ピット・プロテクター着用	可
男子団体法形競技	1チーム	原則として初段以上 (推薦により4級以上)	1チーム5名 体の法形から自由	可
女子団体法形競技	1チーム	原則として初段以上 (推薦により4級以上)	1チーム5名 陰の法形から自由	可
男子団体展開競技	1チーム	原則として初段以上 (推薦により4級以上)	1チーム6名 背番号着用	可
女子団体展開競技	1チーム	原則として初段以上 (推薦により4級以上)	1チーム6名 背番号着用	可
新人団体法形競技	2チーム	5級以下	1チーム5名 旋体・旋陰から選択	可

全ての実戦競技の時間は、決勝・予選問わず、**男子2分、女子1分半**、となります。

新人団体法形競技については**最大2チーム**まで出場可能。**旋体チームには3人以上男子選手・旋陰チームには3人以上女子選手をメンバーに入れてください。**2チーム出場する場合、体・陰の指定はありません。

なお新人団体法形競技に限って*出場選手が4人の場合も参加を認めますが、採点はされません。参加のみという形になります。*団体に所属する新人が4名しかいない大学のみ参加を認めます。

補欠制度

全ての団体種目に関して、大会途中怪我などによる棄権者がでた場合、申し込み時にエントリーされている補欠者各1名を出すことができる制度。

< 補欠適用条件 >

・競技中の怪我によりドクターストップが下され、申し込み時よりエントリーされた 補欠者がいる場合のみ、次の試合より変更可能。

・変更の際は、各コート責任者に必ず報告し、本部で承認されてからの変更となる。

・一度補欠を適用した後は、元の選手が回復したとしても戻すことはできません。

* ドクターストップが下された場合はいかなる理由でもその後の試合には参加できません。ドクターの判断を無視した場合は、全ての競技の得点が無効となりますので注意してください。

2) 出場資格と制限

(1) 出場資格

日本剣道協会に登録されている大学（大学院は除く）・短期大学の剣道部の部員で、平成20年度大学委員会費及び大学委員会費がどちらも期日までに納入済みであること。「一般会員」は平成20年9月分までの「協会費」、「正会員」は平成19年度の「正会員費」を支払済みであること。

一般道場生

大学委員会費及び大会出場費の納入を条件に、個人種目に限り出場を認めます。

看護学生等

剣道部のある大学に学舎を持ち、同大学の剣道部員として活動し、上述の規定に準じている者は出場を認めます。

医学部5・6年生、留学生

あくまでも大学生であることから、上述の規定に準じていれば出場を認めます。

(2) 出場制限

1人3種目までとし、これに違反した場合は該当選手の出場種目すべてについて失格となります。

「(3) 推薦選手枠」に該当する選手にも、この出場制限が適用されるので注意してください。

(3) 推薦出場枠

前年度個人種目ベスト3選手のうち、平成20年度も大学剣道部員の場合は、出場枠とは別に実行委員会の推薦で出場できます。

3) 選手変更について

個人種目出場選手の変更は一切できません。

団体種目出場選手の変更は、大会前日設営時の10月24日（金）19：00までに実行委員長に連絡して下さい（厳守）。

また、選手変更によって新たに競技に出場することになった選手がいる場合、参加費（¥3000/1名）を封筒に入れて（大学名・変更選手名明記）提出してください。

それ以降の選手変更は認めませんので、注意してください。

4) 選手の遵守事項

(1) 出場選手は「剣道五条訓」を練習しておいてください。

(2) 大会当日には、学生証と「健康保険証」を必ず持参してください。持参せずに写しで治療を受ける場合、一部の病院では医療費の全額支払いを求められる場合があります。

(3) 出場選手は日本剣道協会公認の剣道着を着用してください。剣道着の左右の上腕部に大学名や個人名を入れることや、一般的な常識範囲内のマークを取り付けることは認められています。

(4) 団体展開競技に出場する選手は剣道着の背面部に背番号（主役は主・旋技を主体として用いるものは1・運技を主体として用いるものは2・変技を主体として用いるものは3・捻技を主体として用いるものは4・転技を主体として用いるものは5）を、必ず取り付けてください。なお背番号の表記は算用数字を用いる事を厳守してください。必ず主役はハチマキを頭に巻いてください。

「背番号」：約20cm四方の白布に黒文字で作成し、剣道着の背面部に取り付けること。

(5) 実戦競技に出場する選手は、指定プロテクターを必ず剣道着の下に着用してください。女子選手は、空気を入れた面ビットも着用してください。プロテクターはコート内での取り付けは一切しないようにお願いします。

以上の規定に違反すると失格となりますので、注意してください。

更に、以下の場合も出場できないので注意してください。

- ・ 剣道着の背面部に、背番号以外の物を取り付ける。
- ・ 故意に団体展開競技の番号に、団体・大学名を入れる。
- ・ 左胸部の「剣道」のマークを他のものに替える。
- ・ 袖口や袴を、短く切ったり捲ったりする(中段構えの際に、肘が出たりふくらはぎが出ているものは違反と見

(6) 競技に出場する選手は、それぞれの競技の開始予定時刻の 1 0 分前までに集合してください。

但し館内放送があった場合には、その指示に従うこと。

(7) 複数種目出場選手で、競技時間が団体種目と個人種目で重複した場合、団体種目よりも個人種目を優先させ、団体種目で重複した場合には1 番目に実戦・2 番目に法形・最後に展開の順で出場してください。その際、優先させない種目の競技コートの選手係にその旨を報告し、了解を得ること。

5) 競技の判定について

本院公認審判（研修生も含む）に審判を依頼し、「審判規定」に則って各競技の判定を行います。各競技の結果に従って、「総合成績」や「最優秀選手・優秀選手」「技能賞」を決定します。

「総合成績」（優勝・2 位・3 位）・・・

各種目の入賞得点を、「優勝」＝1 0 点、「2 位」＝6 点、「3 位」＝3 点、「4 位」＝1 点として計算し、大学単位で合計得点の高い順に表彰します。

同位の場合には、優勝 2 位 3 位 4 位の順で多い方を上位とします。

「最優秀選手（1 名）・優秀選手（2 名）」「技能賞（1 名もしくは1 チーム）」・・・

大会会長・審判審議長・審判長・副審判長の協議によって選出・決定します。

なお試合の状況により、該当選手がいない場合もあります。